

いま  
ここ

12/26 「チャレンジ助成(案)と事業登録データ更新のお願い」 説明資料＆動画配布

**1/10頃 全リーダー宛に、事業登録データ更新（兼 第2回全国実態調査）依頼**

(資金助成希望の場合)

**1/20頃 データ更新回答〆切***チャレンジ助成*  
**2月1週目頃 応援団による  
資金助成事業の公募開始****2月中旬頃※ 助成申請フォーム回答〆切**

※助成決定をなるべく早く出すため、助成申請フォームの受付は、公募開始から1週間～10日程度になる予定です⚠

(資金助成希望しない場合も全員)

**3月中旬 データ更新回答〆切**

## この資料と資料解説動画についての案内

◆資料解説動画URL:<https://hiromare-takushoku.jp/2022DecPresentation>

	コンテンツ	資料・動画	インストラクション
1	<b>まずははじめに</b> ～今回のチャレンジ助成・実態調査について～	P.4～ 1分49秒～（約9分）	資料を読んで、必要に応じて動画をご覧下さい。 (動画は任意です)
2	「こども宅食を何のためにやるのか？」パート1 つながりたい親子・社会状況について考える	P.12～ 10分50秒～（約5分）	経済的な困窮や援助希求力について、整理を進めました。 <b>事業登録データの更新にあたり参考になるので、是非動画もご覧ください。</b>
3	「こども宅食を何のためにやるのか？」パート2 <b>チャレンジ① 世帯と出会う（つながる）</b>	P.19～ 16分14秒～（約5分）	過去の事業解説動画などでもお伝えした内容です。 (動画は任意です)
4	<b>チャレンジ②身近な伴走者になる</b>	P.26～ 20分58秒～（約7分）	<b>事業登録データの更新にあたり参考になるので、是非動画もご覧ください。</b>
5	<b>チャレンジ③地域で支える人が増える</b>	P.35～ 28分34秒～（約4分）	
6	<b>複数手法組わせの実施</b> （対面・宅配便・来所型の活用）と <b>事業登録データの更新について</b>	P.41～ 32分37秒～（約14分） うち、41分半以降は、 来所型支援の要件など (スライドP.49-50)	<b>まずは、P.46-47の事業登録データ更新の案内・セルフチェックチャートをご確認ください。</b> その他は資料を読んで、必要に応じて動画をご覧下さい。 (動画は任意です)

まずははじめに

助成活動実施するにあたり…

## こども宅食応援団(とフローレンス普及チーム)の悩み

新しく出会う団体さんから「家庭に行って、ごはんやおやつを届ければ、それは『こども宅食』と言えますよね？」

「子どもの貧困を解決するために、食糧を配る活動ですよね？」

それだけではない、食料支援は活動の一部なんだ…

ただ、まだ全国に活動があまり知られていないので、

なかなか伝わりづらい。そんなモヤモヤが募っています。

今年6月、皆さんとはエリアミーティングで目指す活動をこのような図で話しました

## 宅食で目指すもの = つながる + つなげる

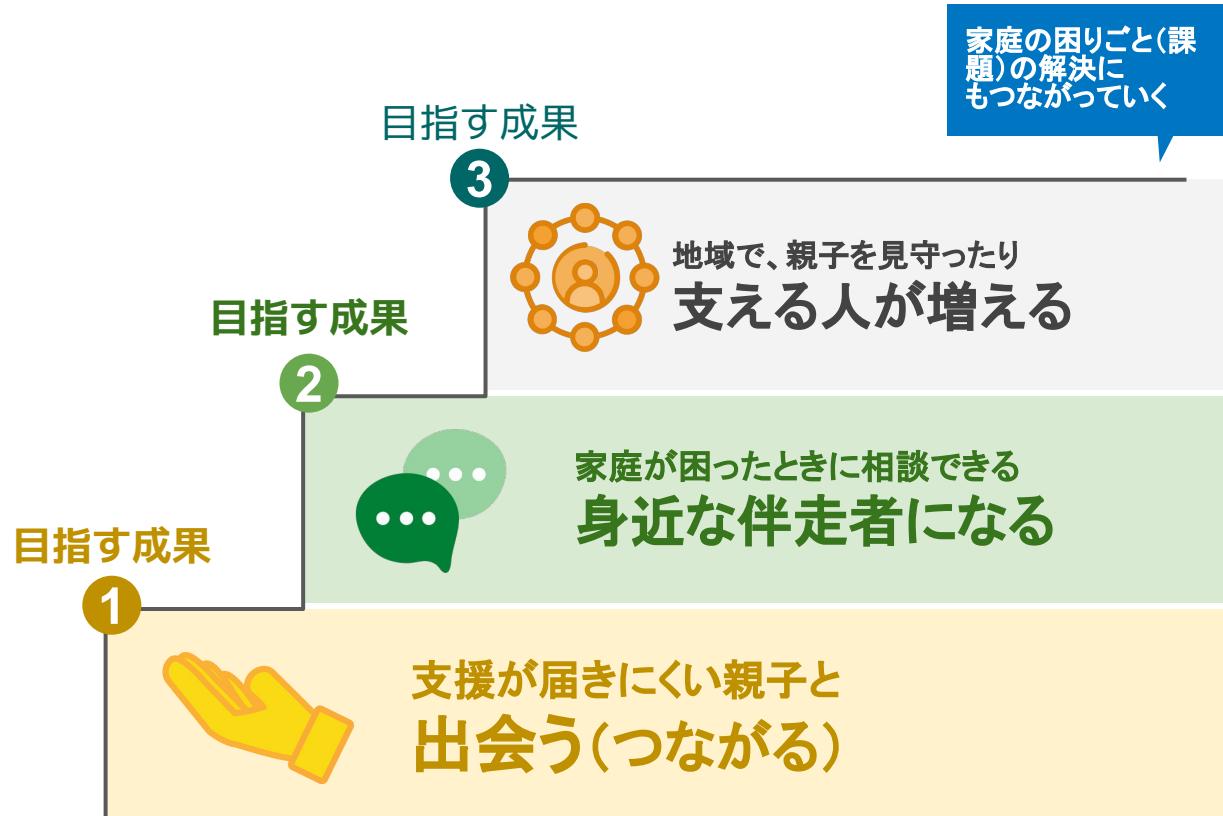
親子の抱える経済的困窮をこども宅食“だけ”で解決するのは厳しい。

(もちろん一部、一時的には改善するものの)。「こども宅食」では、

つながりにくい親子につながるためのアクションをとり (=アウトリーチ)、  
他の必要な支援や、人のつながりを増やしていく



目指す成果(目指す変化)を、もう少し具体的にしました。



ボランティア団体から社協や専門機関など、「こども宅食」を活用する全国の団体の主たる活動や体制は、幅広く多様ですが、  
**どの事業でも目指したい共通の成果は①②です。**



point  
1

全国の事業で  
共通で  
目指す成果



①②の積み重ねの先に、  
最終的にたどり着く  
ゴール  
(※実施者の体制や、地域  
連携の構築状況による)

## 今回のチャレンジ助成企画を通じて共有したいこと2

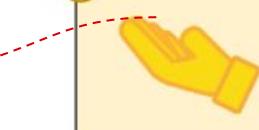
家庭と接点を持ち、見守る手段は来所での実施などさまざまありますが、こども宅食応援団としては、物理的にこちらから出向「届ける」支援ツールの良さを広め、全国の地域でこの取組みが増えるようにしていきたいと考えています。(後で詳細を説明します。)



「届ける」支援ツールで  
支援が届きにくい親子と出会う！



目指す成果  
①



### 事業の詳細登録をお願いします (第2回全国実態調査の位置付けです)

具体的には、地域で実施している**100以上の多様な事業**について、

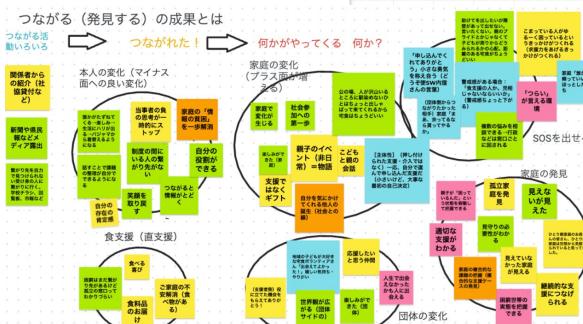
1. こども宅食を通じ、どのような家庭につながろうとしているのか、どのようなことを実現しようとしているのか、**各実施者の皆さんの思いや目指すことを教えてもらう**
2. そのために、どのような**体制や取り組みの工夫**をしているか、取り組みの課題など、**実態と特徴を把握する**

これにより

次のような応援団の活動について来年度以降の方針に活かしたいと思います：

- 新しい地域での、新規事業の立ち上げをサポートする **事例集やノウハウ** についていく
- 悩みや課題を相談したり、似たようなゴールを目指している **団体同士が出会えるコミュニティ** をつくる・増やす
- 研修・座談会の企画や、その他の **伴走支援メニュー**を考える
- 体制・事業の持続性等についての **課題を分析し、国・行政への政策提言** につなげる

こうした整理・言語化できたのは、全国調査、資金助成事業など実施報告・ご意見、広報記事にもした事業ヒアリングなどを通じて、皆さんから事業の実態・ご家庭の実態を教えて頂いたおかげです。



## 隠れている地域課題をみつけ、地域で解決できる環境づくりを——鹿児島県南さつま市てしおて・おとどけ便

2022.12.16

### 各地の取り組み



## 子どもたちの笑顔を守るために——奈良 県奈良市元気ごはん宅食

2022.10.05

各地の取り組み



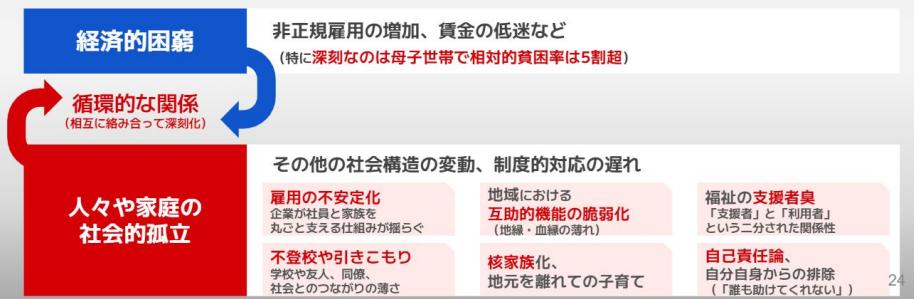
1.「こども宅食を何のためにやるのか？」

つながりたい親子の状態・こうした親子が  
置かれている状況から考える

対象世帯の置かれている状況や、そうした状況が起きてしまう社会構造については、エリアミーティングでも「社会的な孤立と経済困窮が互いに絡み合って深刻化されていることや、「支援や相談に辿り着くまでの様々な障壁」について共有しました。

## 親子が置かれている社会の構造

先行する議論や研究では、“社会的な孤立”と経済的困窮が互いに絡み合って深刻化することが指摘されている。“社会的な孤立”は、社会構造の変動や制度的対応の遅れなどの要因から生じ、「困っているなら援助を求めればいい」とはいかない。



## 支援や相談を阻む、様々な障害

これらの障害を乗り越えた人だけが、支援を受けられる構造にある



経済的困窮

それ自体も非常に重大な課題なのですが…

日本の子どもの**7人に1人**が

**相対的貧困**

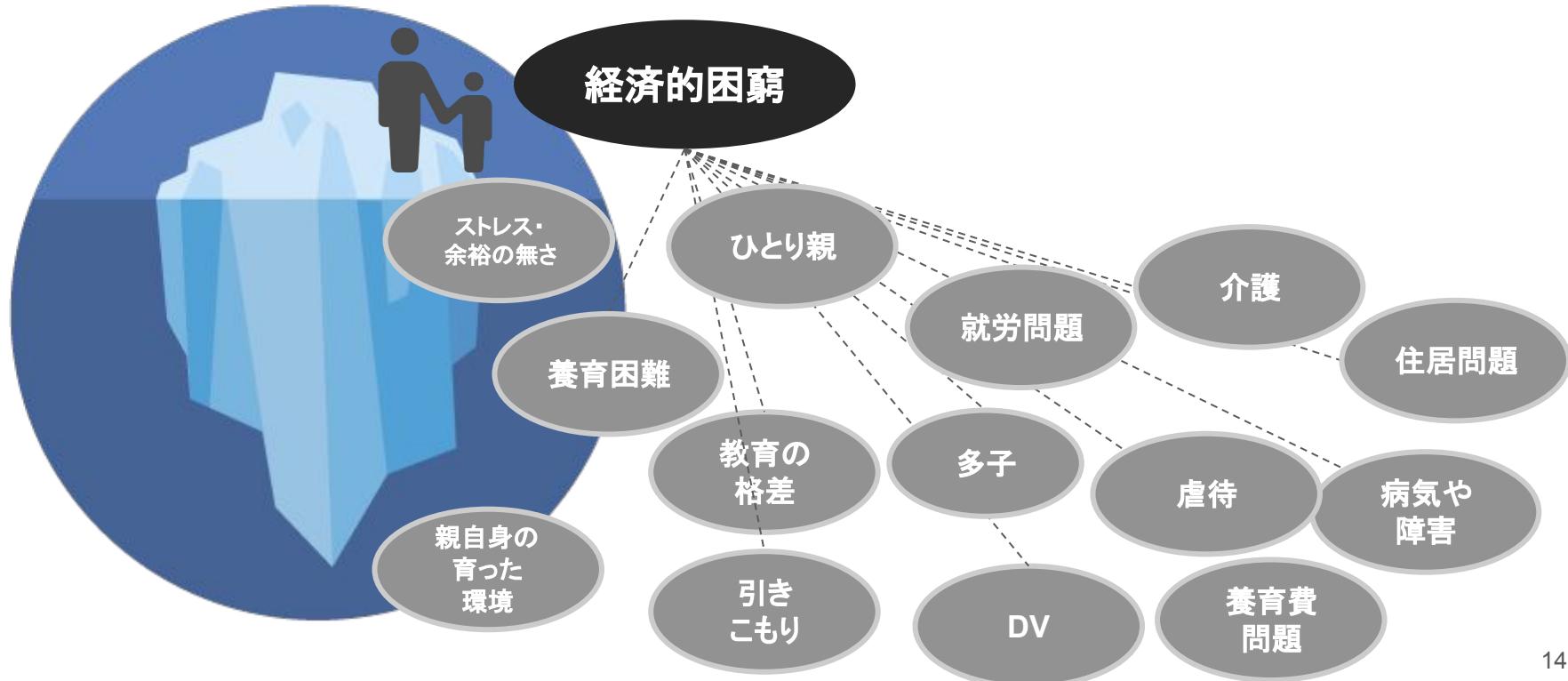
その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態。

等価可処分所得※の中央値の半分(貧困線)に満たない世帯。

日本の場合、等価可処分所得**122万円以下**が相対的貧困世帯。

※世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得

「経済的困窮」は **氷山の一角** にしか過ぎず、見えていない様々な困りごと(課題)が絡み合って存在している可能性がある。そうした事例を多く見て、聞いてきました。



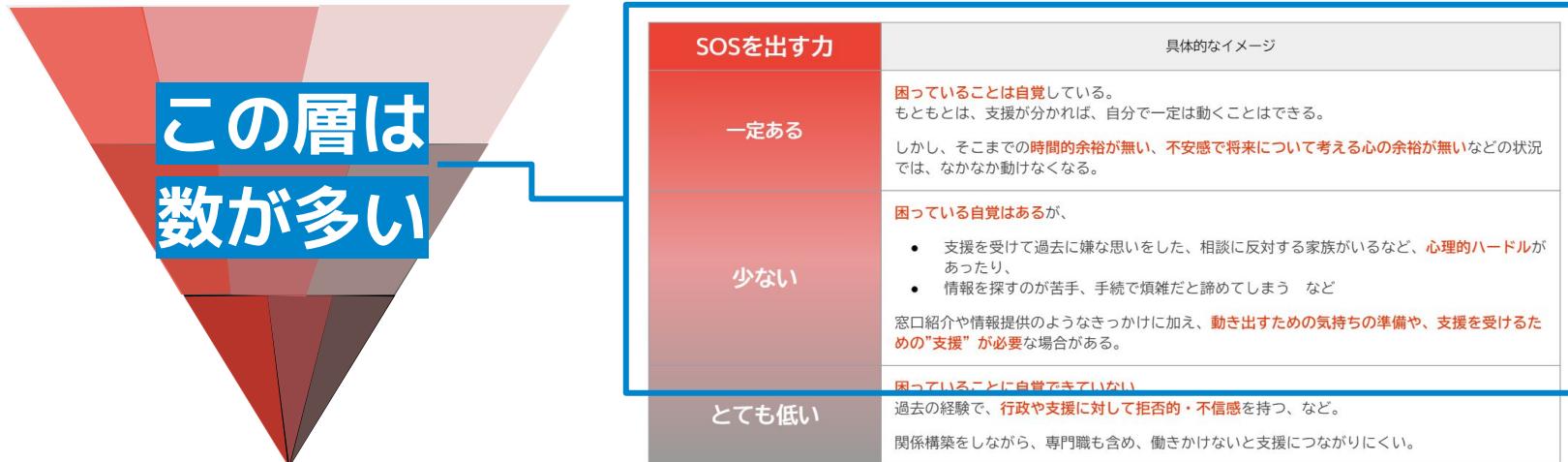
同時に、家庭のSOSを出す力(援助希求力)が、支援の届きにくさ・つながりにくさに影響する、ということも重要です



## 全国の「こども宅食」の活動から、親子の状態が見えてきたSOSを出す力(援助希求力)

SOSを出す力	具体的なイメージ
一定ある	<p>困っていることは自覚している。</p> <p>もともとは、支援が分かれれば、自分で一定は動くことはできる。</p> <p>しかし、そこまでの時間的余裕が無い、不安感で将来について考える心の余裕が無いなどの状況では、なかなか動けなくなる。</p>
少ない	<p>困っている自覚はあるが、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>支援を受けて過去に嫌な思いをした、相談に反対する家族がいるなど、心理的ハードルがあったり、</li><li>情報を探すのが苦手、手続で煩雑だと諦めてしまうなど</li></ul> <p>窓口紹介や情報提供のようなきっかけに加え、動き出すための気持ちの準備や、支援を受けるための”支援”が必要な場合がある。</p>
とても低い	<p>困っていることに自覚できていない、</p> <p>過去の経験で、行政や支援に対して拒否的・不信感を持つ、など。</p> <p>関係構築をしながら、専門職も含め、働きかけないと支援につながりにくい。</p>

- あなたも、わたしも、誰しもなり得る
  - SOSを出す力は「ある・無し」ではなく人により様々で、グラデーション
  - また、特別なことではなく、家計悪化や孤立した子育てなどでストレスが増えるなど環境の変化や、支援に関する過去のネガティブな経験により、SOSを出す力が下がってしまうことも。
- 虐待などの「ものすごく大変な家庭」だけでなく、グラデーションのなかで「SOSを出す力が高くなく、環境の変化があって弱まっている状態」の人があり、比較するとその数が多い。
  - とすると、専門職だけがアウトリーチをするのでは足りず、地域や社会で、さまざまな層の親子にもつながる人や団体が増えることが重要。（＝地域共生社会の目指すもの）



あらためて「どんな家庭とつながりたいか？」を考える

①「経済的な困窮」にあり、かつ、②「SOSを出す力が高くない」親子のための活動が、いま地域に必要なのでは？

エリアミーティングで話したような **社会の構造** を考えると

親子の状況①  
顕在化した **経済的困窮**



他にもいろいろあるかもしれない

親子の状態②  
**SOSを出す力が高くない**（孤立しやすい・状況悪化しやすい）

かつ



2. 「こども宅食を何のためにやるのか？」

**地域で生み出したい "変化"(成果)**

**とそのための仕組み・工夫**



チャレンジ1

支援が届きにくい親子と  
出会う(つながる)

# 支援が届きにくいのは、様々な障壁や制約が存在するから



## 情報の伝達、手続の複雑化

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと分からぬし、支援自体が少なすぎる。

日本語が不自由で書類を書くことができない。  
手續が面倒でサービス利用を諦めたことがある



## 心理的な障壁(拒否感・警戒感)

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって。もう関わりたくない。

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは



## 本人による課題認知の不足

自分たちは困っていない。  
(困っていることに気付いていない)

経済的に困窮しているが、中長期的な見通しが立てられない。何をどうしたらいいか、分からぬ。



## 物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。  
平日の昼間に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、ガソリン代や駐車場代を出すお金の余裕がないです。

# まず出会う（申し込んでもらう）ための仕組みとは？

全事業共通

食品など生活必需品  
をフックにする

こちらから  
自宅に届ける



要素① 経済的な困窮に顕れるような困りごとがある人にとつて、ちょうど助かるものがもらえる（＝申込みの誘引）



要素② 困りごとを周囲に知られたくない人でも抵抗感が低い

要素③ 本人が支援を受けに場に出てこれないケースでも利用できる



さらに…

保健師・SSW・社協などと連携したチラシ  
配布や声掛けなど、  
情報を届ける活動の強化

・WebやLINEを活用し、24時間受付  
・分かりやすい申込みフォーム



要素④ 情報を探すのが苦手・困っている自覚していない場合でも、こども宅食の案内情報が届く



要素⑤ 手續が苦手だったり、時間や心の余裕も無くても申し込める（＝申込み手續の時点で離脱しない）



# 一人で課題を抱え込む親子にも…「食」は万人に効く強力なフック



三股町社会福祉協議会 松崎亮さん

—こども宅食の良さをどう分析しますか？

いきなり深刻な相談はハードルが高い人や、根本的な問題を本人が認識していない場合、相談・支援の窓口で待っていても出会えない。

一方で、**「無料なら食品がほしい」というSOSは比較的どんな人でも出しやすい。**

援助希求力が弱い人でもつながりやすいのがこども宅食です。

「届ける」支援ツールを活用してもらいたい理由：

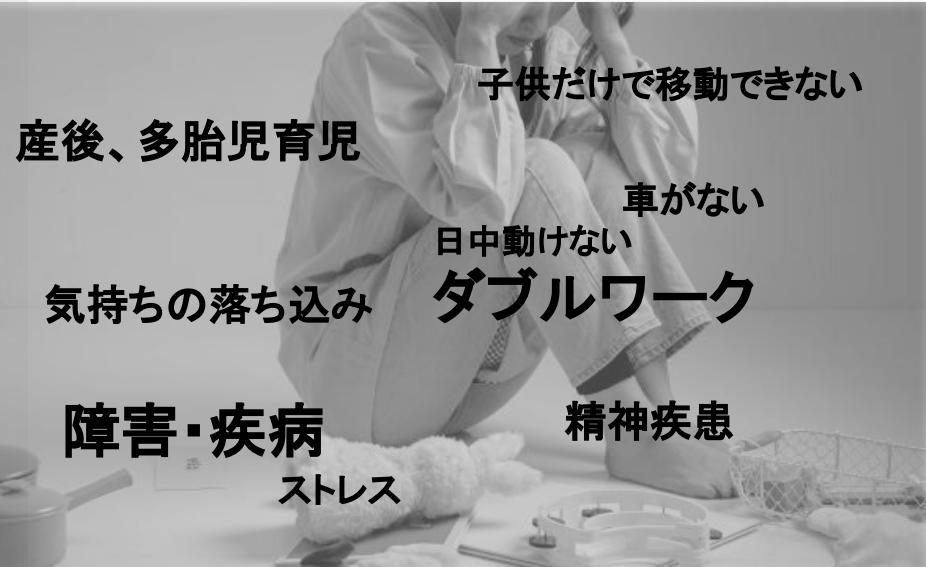
支援を受けに物理的に場に出てこれない親子がどの地域にも必ず存在するから

過去調査※：約3,000世帯のうち、444世帯・約14%

「外出が困難になるような障害・  
疾病がある」と回答\*



※n=3,173家庭(2021年8月の神戸こども宅食に申込んだ家庭)



## 事業登録フォームで質問(実態把握の調査)していること

周知方法	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>行政などと連携し、対象世帯・潜在的な対象世帯に直接案内</li><li><input type="checkbox"/>行政や社協、地域団体、民生委員から気になる家庭に紹介してもらう</li><li><input type="checkbox"/>専用のWebサイト、SNSを開設</li><li><input type="checkbox"/>保育園・公民館・市役所など対象者が立ち寄りそうな場所にチラシを置く</li><li><input type="checkbox"/>地方紙(新聞)やラジオ</li><li><input type="checkbox"/>県民だより・市民だより、全住民向け冊子(暮らしの便利帳など)に掲載</li><li><input type="checkbox"/>事業は非公開で実施している</li></ul>
(心理的なハードル) 支援を受けることへの偏見(スティグマ)や拒否感があるご家庭への配慮	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>チラシやWebは、利用層の目線で親しみやすいデザイン・色合いなどを取り入れている</li><li><input type="checkbox"/>「貧困」「要支援」といった表現を避ける・極力配慮している</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul>
(支援を受けるための手続きの煩雑さ) 申込み時に利用家庭が離脱しないための工夫	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>LINEなどオンラインでどこからでも・24時間申し込める</li><li><input type="checkbox"/>時間がない・難しい手続が苦手な人でも申し込める簡易な入力項目にしている</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul>
(課題の自己認知) 本人が「困り感」を感じていない場合のアプローチ	<p>【チェックボックス(複数選択可)】</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>自団体以外に、申込みを案内してくれる団体や連携先がいる</li><li><input type="checkbox"/>その他</li></ul>
支援世帯数(ユニーク数)	<ul style="list-style-type: none"><li>①対面訪問により支援している世帯</li><li>②宅配便を活用して支援している世帯</li><li>③来所型で支援している世帯</li></ul> <p>※要件: ③来所型のみではなく①②も取り入れていること (P. 48の解説へ)</p>



チャレンジ2

**家庭が困ったときに相談できる  
身近な伴走者になる**

本人も実施者も影響し合って変化する：

「困ったときに相談できる」上下関係のない身近な伴走者になる

利用家庭

不安・警戒心

「申込み、勇気が必要だった」  
「どんな人が来るのかな」

警戒心が減る

身近に感じる

「ありがたいな」  
「自分は一人じゃないんだ」

相談する

「相談してみようかな」  
「何か知ってるかな」

関係構築のフェーズ

実施者

出会えた喜び

「申込みんでくれてよかったです」  
「大変なときはおたがいさま」

気にかける

「今日も元気かな」  
「他に困ったことないかな」

自然に気付く

家庭の大変そうな点や  
変化に気付く

話を聞く

or 様子を見ながら  
声をかける



# 「本人のSOSを出す力が上がる」イメージ

利用ハードルを下げる結果、  
こども宅食の申込み自体が  
最初の成功体験になる  
(=小さなSOSを出せた経験)



定期的に声をかけ、気にかけて  
くれる人の存在を知って、  
「1人ではないんだ」と孤立感が  
軽減したり、安心感が生まれる。



ちょっとした悩みごとと一緒に  
考えてくれる人ができ、  
「もう少し行動してみよう」など  
前向きな心理変化が生まれる。

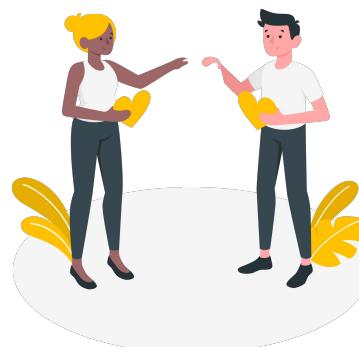


# 身近な伴走者になる

家庭の状況や困りごと、変化を  
自然に（無理なく）  
周囲が知る・気づくことができる。



「おたがいさま」の精神で、  
「困ったときに相談できる」  
上下関係のない身近な存在になる。  
(まずは団体自身が家庭を気に  
かける存在になる)



ここで、「こうした成果は、こども宅食でなくても出せるのでは？」

…その問い合わせへの答えは、たしかに「YES」です

ただ、こども宅食（特に、対面訪問）は

ツールとして特に使いやすい点 があり、

専門職でなくても、市民やボランティアの方も含め、

“身近な伴走者”的手が増えていくのに

活用してもらうと良いツールなのでは？と考えています。

◆対面訪問型のこども宅食がツールとして使いやすい点：専門職でなくても、①支援が届きにくい家庭に使ってもらえる、②関係構築しやすい、③変化や困りごとに気付きやすい。

▼活動（アプローチ）の各ステップ	対面訪問型の見守り活動（訪問のみ・食品等無し）	対面訪問型の見守り活動（食品等あり）	来所型の見守り活動（食品等あり）
①対象者 物理的に場に出てこれない人や見えにくい支援を希望する（周囲に知られたくない人）の利用	利用してもらいやすい	利用してもらいやすい	利用してもらいづらい・工夫が必要
②関係構築のし易さ 単純接触効果（何度も会う）や場の安心感（プライバシー）がある	し易い ※同右	し易い ・自宅（安心な場所） ・特に同じ人が訪問する	工夫次第 ・顔見知りのスタッフ ・個室などなら場の安心感も
③関係構築のし易さ 自然な接点、喜ばれる接点	難易度やや高い 訪問自体が喜ばれる関係になっている場合など	し易い ・喜ばれる食品等 ・会話のきっかけ	し易い ・喜ばれる食品等 ・会話のきっかけ
④家庭の状況や困りごと、変化を自然に（無理なく）周囲が知る・気づく	非言語情報が多いので気付き易い ※同右	顔色や表情だけでなく、服装や家の様子など <b>非言語情報が多いので気付き易い</b>	難易度が高い 非言語情報は顔色や服装などに限られる（大部分は本人の説明が頼り）

# 対面訪問では家の様子・子どもの表情などの非言語情報が自然と入る（強み）

見守り強化事業(XX便) 訪問時チェックリスト

訪問日 令和 年 月 日		
利用者名 ( )	訪問者 ( )	
項目	チェック内容	<input checked="" type="checkbox"/>
お届け状況	自宅で手渡し	
	事務所で手渡し	
住まいの状況	きれい	
	ふつう	
	散らかっている	
子どもの状況	不自然な怪我やアザ	
	体調不良（病気の治療中）	
	表情が乏しい	
	極端に無口	
	大人の顔色を窺っている	
	親への近づき方、距離感が不自然	
	服装、身だしなみ（不衛生な状況）	
保護者の状況	体調不良（病気の治療中）	
	表情が乏しい	
	極端に無口	
	感情や態度が変化しやすい	
	余裕がないように見える	
	子どもへの近づき方、距離感が不自然	
自由記述		

ある社協での宅食で、ボランティアが  
使っているチェックリスト

## 各地の実際の事例



不登校の子ども。物資を届けに行った際には  
顔を見せてくれ、自分の好きな食べ物が入っているか、物資  
が入っている袋の中を嬉しそうに見ている姿 があった。受  
験についても話すことができた。



お母さん自身が体調不良になり仕事を辞め、  
自宅で仕事をしていたが不安定な状態であり、  
宅食がとても助かったと言われていた。  
現在は就職も決まり、子どもたちの  
表情が以前より明るくなっていた。



実際に訪問してみると、元々の養育力の低さや母の病気、  
コロナによる収入減により食事にかける優先順位が  
下がっており、一日1食食べられたら良い方。  
家中も混沌としており、とても子どもが  
安心・安全に暮らせる環境とは言い難い状況 でした。



コロナ禍、母親が職場を解雇され  
家庭にずっと居ることに。公営団地の  
あまり広くない住居に、親子3人が  
時間を共有 することが多くなり（1人は  
不登校で在宅）煮詰まり状態 になりました。

## (補足)宅配便活用の皆さんに今回チャレンジ頂きたいこと

### ◆(活動要件として)取り入れる工夫:

経済的困窮以外の家庭の状況把握や、困りごとに自然に話すきっかけが生まれることを促すため、

- LINE等で、気軽になるべく双方向のコミュニケーションを定期的に行う
  - 地域の相談窓口や子育て支援イベントの情報など利用家庭の参考になりそうな情報を提供する（目安：月1回程度）

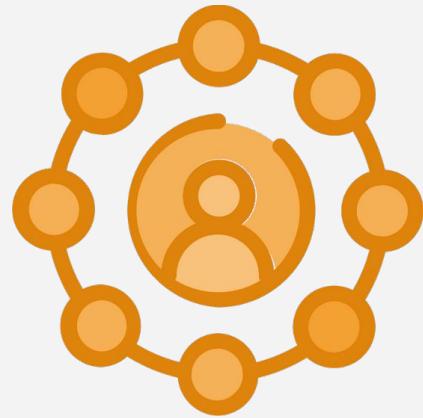
A father (left) is expressing concern about his daughter's menstrual products, asking for guidance on what to use and how to use it. The mother (right) responds by suggesting a website for children to learn about menstruation.

父子家庭です。  
娘がどんな生理用品を使えばいいのか?  
使用法もわからない。教えて欲しい…。

お子さんと会話しにくい話題ですよね。生理についてお子さんが自分で見て理解するのに適したWebサイトがありますよ。

## 事業登録フォームで質問(実態把握の調査)していること

家庭の状況について確認しているポイント	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>子どもの様子</li><li><input checked="" type="checkbox"/>親御さんの様子</li><li><input type="checkbox"/>食事の状況</li><li><input type="checkbox"/>家の内外の様子</li><li><input type="checkbox"/>近くで助けてくれる存在（親族・友人など）の有無</li><li><input type="checkbox"/>地域の民間団体とのつながり</li><li><input type="checkbox"/>行政とのつながり</li><li><input checked="" type="checkbox"/>その他</li></ul>
経済的課題以外の利用家庭のニーズ／課題の把握手段	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>申込時の家庭状況ヒアリング</li><li><input type="checkbox"/>申込時以外のアンケート／調査票によるヒアリング</li><li><input type="checkbox"/>配送時のコミュニケーション</li><li><input type="checkbox"/>配送時とは別に定期的に会話する時間を設定</li><li><input type="checkbox"/>連携する行政／専門機関からの情報提供</li><li><input type="checkbox"/>関係する民間団体との情報共有</li><li><input type="checkbox"/>特に把握していない"</li></ul>
活動要件（必須）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 活動は単発支援ではなく、最低でも<b>6ヶ月以上</b>家庭と接点を持ち支援することを想定していますか。</li></ul>
活動要件（必須）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 世帯について、利用家庭の氏名、住所、世帯構成等、活動に<b>必要な家庭の情報を記載した支援家庭リスト</b>を作成していますか。</li></ul>



## チャレンジ3 地域で、親子を見守ったり 支える人が増える

最後のゴール「親子を見守ったり支える人が増える」は、これまで説明した「利用家庭の身近な伴走者になる」の延長線上に、自然に生まれてくる成果なのではないかと考えます。

## ステップ2 利用家庭の身近な伴走者になる

家庭の状況や困りごと、変化を  
自然に（無理なく）  
周囲が知る・気づくことができる。

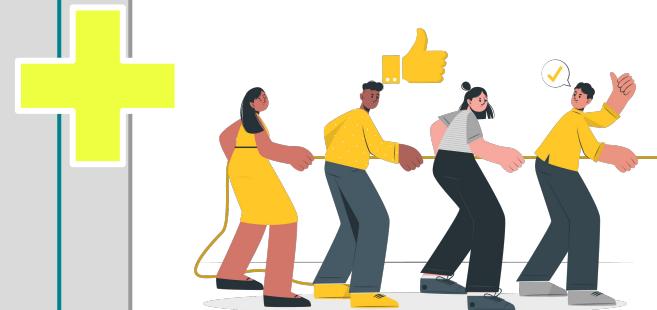


「おたがいさま」の精神で、  
「困ったときに相談できる」  
上下関係のない身近な存在になる。  
(まずは団体自身が家庭を気に  
かける存在になる)

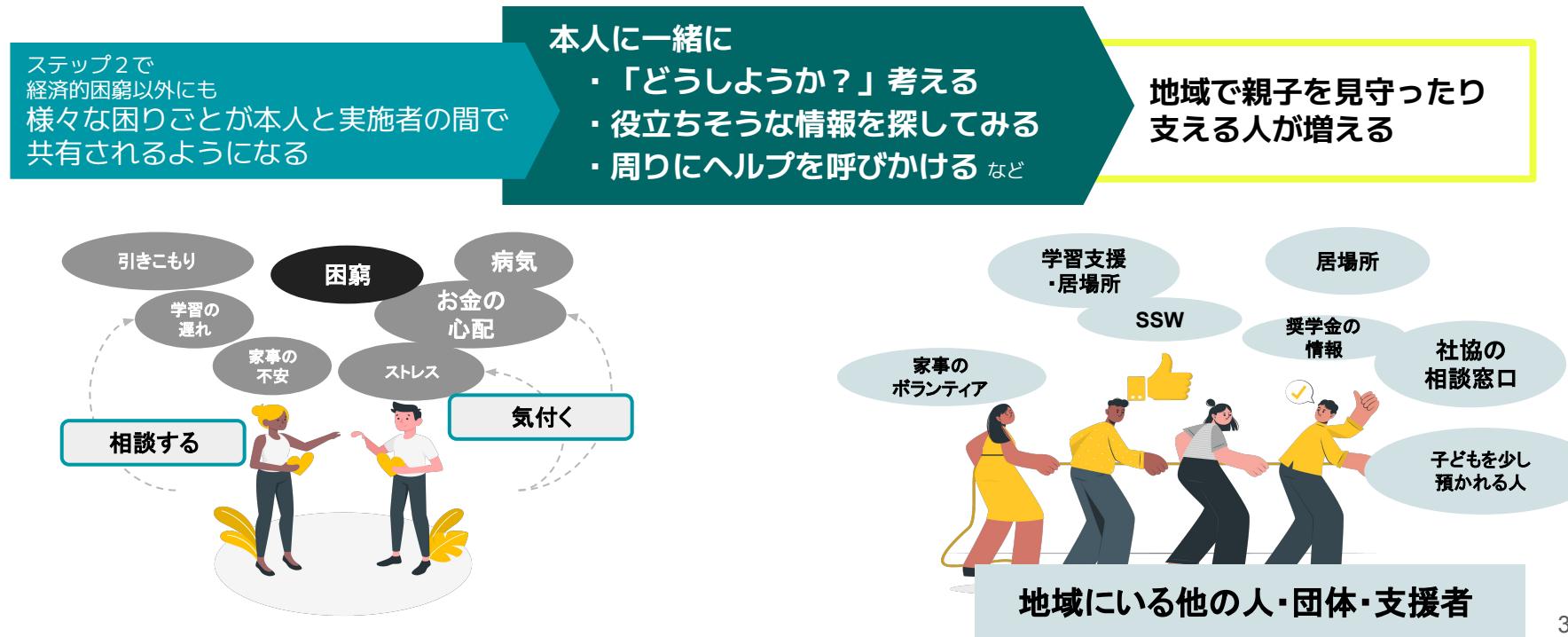


## ステップ3 地域で、親子を見守ったり 支える人が増える

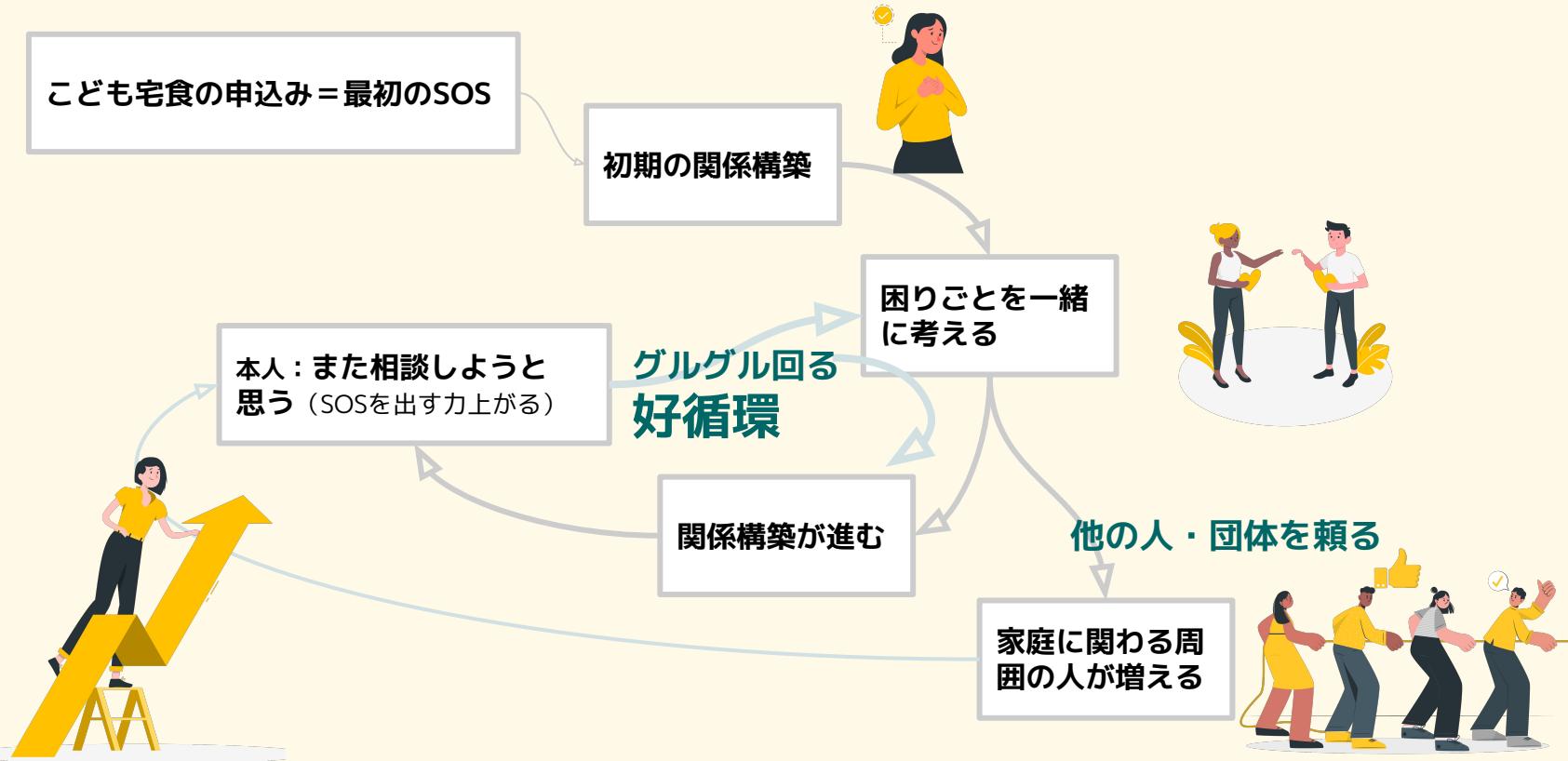
家庭の困りごとを何とかするため  
地域の社会資源や人にもつなげていく。結果、地域で家庭を気にかける人、一緒に見  
守る人が増えていく。



"**身近な伴走者**"になるには、家庭の困りごとや相談が共有される、ということが出発点になります。その内容は家庭により様々で、実施団体自身だけでは、良い対応方法が浮かばないこともあります。そんなとき、**本人と一緒に考え、役立ちそうな情報を探してみる、周りにヘルプを呼びかける**。そうすることで徐々に、他にその家庭を見守ったり、支えてくれる人や団体が増えていくのだと考えます。



## 成果1～3まで: 一歩一歩の積み上げが好循環に



- 私達（こども宅食応援団）が、**“こども宅食の枠内”では目指していないこと**
  - 届けて終わり（食支援）だけ
  - 経済的困窮を直接に解決すること（←食支援だけでは実現不可能。専門機関につなげることが重要）
  - 被支援者・支援者の上下関係ができてしまうこと。関係性を築かずにつなげて一方的に支援をすること
- 私達（こども宅食応援団）が、増やそうとしてる人・団体
  - **家庭の身近な伴走者になること**（必ずしも専門職・有資格者でなくてもよい）
    - ❖ 家庭の抱える困りごとを本人側から安心して相談される関係になる
    - ❖ 本人と一緒に「じゃあ、どうしようか？」を考えながら、自分たちがいまできることや、必要な情報や他に頼る先を探す など
  - 身近な伴走者を目指すと自然と**他団体・人と連携する**  
利用家庭のためにも、団体自身で全て解決しようとせず、他の団体を頼る・SOSを出す。  
チームになって活動をする

ゆくゆくは、どんな人も、困ったら「おたがいさま」で  
声をかけ合える人間関係に囲まれる地域、社会



あなたも、私も…長い一生のなかで、一回も困る場面が無い人はいない！

少し"派生した"事業…  
**手法を組み合わせた事業**  
と事業登録データの更新について

当然ですが、

(訪問対面型の)こども宅食も万能なツールではありません

## 対面訪問型のこども宅食の課題

- つながれる世帯数が限定的

訪問に非常に人手がかかるのでリーチできる規模（世帯数）が限定的になる。

※人口の多い都市部は特に悩む。「日程調整や人手の確保などは来所支援と比べかなり大変」という声も出る。

- 訪問移動の負担

「家庭が来所できないからこちらから出向く」ということは、裏を返すと、宅食の訪問スタッフに負荷がかかっている。（移動にかかる時間やガソリン代など）

※北海道など面積が広大な場合、離島や山間部の家庭へのリーチ、宅配に使える車が少ない都市部は特に。

- 対面訪問を望まない家庭には使えない

導入した地域からは、①いきなりの自宅訪問には抵抗感がある、②支援に反対する配偶者等が自宅におり話しにくい、③自宅を知られたくない（DV被害者など）といったさまざまな理由が聞かれた。

- 一定の体制は必要

民間団体でも実施しやすい一方で、密室でのトラブルや、家庭が話したくないここまで宅食ボランティアが踏み込んで聞いてしまう等も起こりうる。研修等が必要。

# 今回のチャレンジ助成を契機に整理した、直近(今年度)の伴走方針

P.31の通り、ツールとして導入・活用の難易度が比較的低い **対面型こども宅食**  
(一定の課題はあるが)

P.17の狙いで書いた通り、担い手の裾野を広げるため、(専門職がいるか、過去実績があるか、などの)体制要件はあまり細かく取り決めず、資金助成などを行う

◆対面訪問型のこども宅食がツールとして使いやすい点: 専門職でなくとも、①支援が届きにくい家庭に使ってもらえる、②関係構築しやすい、③変化や困りごとに気付きやすい。

▼活動(アプローチ)の吕(スタッフ)	対面訪問型の見守り活動(訪問のみ・製品等無し)	対面訪問型の見守り活動(食品等あり)	対面型の見守り活動(食品等あり)
①効率 物理的に届けに来れない人や 見えにくく困りごとを抱える (高齢に知られたくない人)の利用	利用して もらいやすい	利用して もらいやすい	利用して もらひづらい・ 工夫が必要
②関係構築のし易さ 単純無駄な結果(何度も会う)や 他の文化(プライバシー)が原因	し易い ※現状	し易い ・自己(安心な接觸) ・他(個人的距離)	工夫次第 接觸(アプローチ) ・個室などより他の立場も
③関係構築のし易さ 自然な結果、喜ばれる	※助成事業報告から 貢献してきた!!		

## 対面訪問型のこども宅食の課題

- つながれる世帯数が限定的  
訪問に非常に人手がかかるのでリードできる規模(世帯数)が限定的になる。  
※人口の多い都市部は特に悩む。「日程調整や人手の確保などは来所支援と比べかなり大変」という声も出る。
- 訪問移動の負担  
「家庭が来所できないからこちらから出向く」ということは、裏を返すと、宅食の訪問スタッフに負荷がかかっている。(時間やガソリン代など)  
※北海道など面積が広大な場合、離島や山間部の家庭へのリード、宅配に使える車が少ない都市部は特に。
- 対面訪問を望まない家庭には使えない  
導入した地域からは、「いきなりの自宅訪問には抵触感がある。②支援に反対する配偶者等が自宅にあり話しごくい、③自宅を知られてたくない(DV被害者など)といったさまざまな理由が聞かれた。
- 一定の体制は必要  
民間団体でも実施しやすい一方で、密室でのトラブルや、家庭が話したくないことをで宅食ボランティアが踏み込んで聞いてしまう等も起こりうる。研修等が必要。

## 1

対面訪問型のメリット・デメリットも踏まえ、  
「支援が届きにくい世帯の特性に合ったつながり方  
・見守り体制の構築」を目指す場合に、  
**来所型などとの手法と組み合わせての活動を  
モデル的事業の実施としてサポート**  
(+体制等について一定要件を求めていく)

## 2

対面訪問型のメリット・デメリットも踏まえ、  
**宅配便型の活動は、「事業規模を一定拡大する」、  
「対面コミュニケーションに代り、見守りにデジタルも活用」などにチャレンジしており、モデル的事業の実施としてサポート**  
(+体制等について一定要件を求めていく)

したがって、来所型メインの事業・宅配便活用の皆さんについては、  
**モデル的事業の実施として、体制についての一定の条件を充足して頂くことをお願いします。**

（※助成事業は一般公募のため新規団体も一定ネットワークに加盟申請してきます。私達としても事業を十分に理解したメンバーを置くなど伴走体制の整備が必要となり、一気に急増するとすぐに対応できないためです…。）

具体的には以下の3要件です：

- 経済的困難以外に様々な課題を持つ家庭に対し、必要な支援を提供する又は必要な支援につなげる体制があること
  - もともと相談支援事業を行っている組織であるため、自団体で対応できる
  - 対応するためのつなぎ先の確保・つなく手順を準備できている
- 本事業の対象家庭すべてについて、他機関との連携や定期的なアンケート等により、経済的な課題以外にも家庭の状況を把握し記録していること
- 利用家庭についてきめ細かな支援が必要と考えられる場合は、訪問面談や個別ヒアリングなどの必要な対応を行う体制がありますか？  
※専門機関等と連携して実施する場合も含む

P. 1の通り、年明けに詳しくご連絡しますが、**第2回全国実態調査（※）**を兼ねた、事業登録データの更新をお願いします！ その際、事業のパタンごとに質問や入力項目が異なるため、最初にパタンを選んで頂きます。

※全国実態調査の目的についてはP. 9ご参照

 FormBridge

事業登録データ更新 フォーム

※現在システム開発中で見本です

① 共通ページ  
Some description 1

② 加盟時に把握すること（訪問型）（宅配型）（来所・複合型）  
Some description 2

0. 活動の種類

まずは、今回ご登録いただく活動の種類について以下の質問にお答えください。

当てはまるのは  
どれ？

今回、ご登録いただく活動は次のうちどちらに当てはまりますか？

約7割以上の世帯に対面訪問型の「こども宅食」を実施している（団体スタッフやボランティアが訪問）

約7割以上の世帯に宅配便を活用した「宅配便活用こども宅食」を実施している（宅配業者が食品等をお届け）

約7割以上の世帯に見守りや家庭とのつながりを目的に、「来所型」による食支援を実施している

上記いずれにも当てはまらず、対象家庭の状況や特性等に応じて、訪問・宅配便型の「こども宅食」と来所型を組み合わせて実施している

## ◆「事業登録どのパターンです？」セルフチェックチャート

パターン

## 対面訪問型メイン

約7割以上の世帯に  
対面訪問型の「こども宅食」を  
実施している  
(団体スタッフやボランティアが  
訪問)

やること

※体制に関する  
要件無し

普通に、  
事業登録データ更新  
(+助成申請フォーム)を  
提出

## 宅配便活用型

約7割以上の世帯に  
宅配便を活用した  
「宅配便活用こども宅食」を実  
施している  
(宅配業者が食品等を  
お届け)

## 来所型メイン

約7割以上の世帯に  
**見守りや家庭とのつながりを**  
目的に、「来所型」による食支  
援を  
実施している

この3つはモデル的事業の実施  
(P.44参照)

## ミックス型

左3つのいずれにもあてはまら  
ず、対象家庭の状況や特性等  
に応じて、訪問・宅配便型・来  
所型を組み合わせて実施

P.45の体制に関する要  
件を確認  
+

P.33の活動要件(取り入  
れる工夫)を準備  
+

事業登録データ更新  
(+助成申請フォーム)  
を提出

P.45の体制に関する要  
件を確認  
+

P.49以降の活動要件  
の充足をチェック  
+

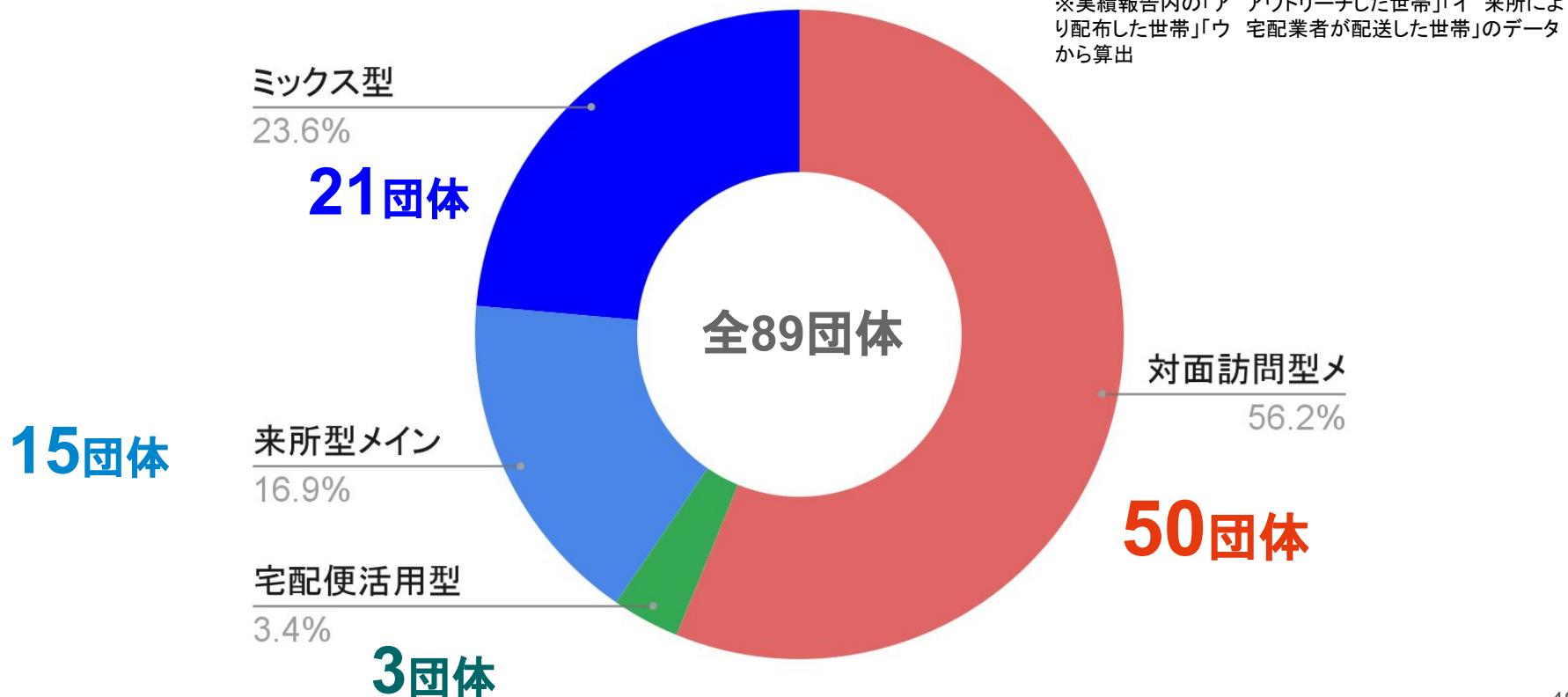
事業登録データ更新  
(+助成申請フォーム)  
を提出

P.45の体制に関する要  
件を確認  
+

来所について、P.49以  
降の活動要件の充足を  
チェック  
+

事業登録データ更新  
(+助成申請フォーム)  
を提出

## 参考【今年度夏の補助事業】家庭への支援手法※による事業パターン



## 支援が届きにくい親子と出会う(つながる)仕組みとして 来所型支援を主として活用する場合(1／2枚目)

### (1) 前提条件:

- 活動は、食品等の提供をツールにし、定期的な接点を確保する目的であること  
**例えば、「学習支援等で既に接点がある・見守りができている子どもに、  
帰りに食品を渡す」等の活動は、通常の食支援とし、今回登録・助成対象の  
「つながる・見守る目的の活動」とは区別します。**
  
- **一部の必要な家庭には、訪問型(対面または宅配便)のこども宅食を実施する  
(P.23ご参照)**  
様々な事情で外出が困難、移動手段の制限等により物理的に支援を受けるハードルがある家庭はどの地域にも必ずおり、そうした世帯を取りこぼさないためです。

►「どのような家庭に訪問型を活用するのか？(「ここと」の利用)」等の工夫についても、  
**全国でのノウハウ蓄積のためヒアリングさせてください。**

事業登録フォーム:「利用家庭の状況に応じて複数の方法を組み合わせる(来所型と訪問型など)という支援について、具体的にどのような運用をされていますか。どのような家庭にどのような方法を使う、など具体的に記載してください。」

支援が届きにくい親子と出会う(つながる)仕組みとして  
**来所型支援を主として活用する場合(2／2枚目)**

**(2) 活動要件:**

来所・パントリーなど自宅以外での接点を持つ場合、

- **ア.「困窮する人が来る会場」などのステイグマを防ぐため、対象家庭のみに場所・時間を知らせている(=会員制の会場・引渡し場所である)**  
※「誰でも来てよい」(ステイグマ軽減のため)という会場の場合、P.18の通り「困窮や生活課題」を把握している世帯のみが世帯数調査・助成の対象になります。
- **イ. 移動手段の制限等により物理的に支援を受けるハードルがある家庭への配慮**
  - ✓ 自宅や駅から近い、又は無料・安価な駐車場が併設されている会場などを選ぶ
  - ✓ 土日や平日の場合も夕方など、仕事のある人でも来所しやすい曜日・時間設定をしている  
(※参考資料: <https://hiromare-takushoku.jp/NagasakiPJ>)
- **ウ.「人とのコミュニケーションが苦手」など、心理的障壁がある家庭でも行きたくなるような雰囲気づくりの工夫をしている**



# 全国で「つながる！」を増やす チャレンジ助成(企画案) +事業登録データ更新のお願い

2022年12月 こども宅食応援団・  
フローレンスこども宅食普及チーム